

岐阜信金、交流拠点整備

岐阜市 創業の地跡地活用

25年春開業へ

岐阜信用金庫（岐阜市）は、創業の地となる岐阜市

025年春の開業を目指す。

ドバイスや事業者向けにコンサルティングを行う相談スペースを配置。金融窓口業務の機能は設けず、新しいコンセプトの建物として運営する。

神田町の旧若宮町支店跡地に、地域のにぎわい交流拠点となる建物を整備する。

支店跡地の敷地面積は620平方メートル。建物は鉄骨3階建てで、1階のパブリックスペースは市民の交流場所として活用するほか、コ

ンサートや絵画展などのイベント開催を見込む。2、3階は、資産運用など個人のライフプランニングの

市民が交流できるパブリックスペースを設け、地域活性化や中心市街地のにぎわい創出につなげる。来年3

月の創立100周年の周年事業に位置付けており、2

同金庫の前身は、1924年に設立された二つの信用組合で、40年に合併して岐阜信用組合が誕生。旧若宮町支店のあった場所に本

にぎわい交流拠点を建設する岐阜信用金庫の旧若宮町支店の跡地。14日、岐阜市神田町

店を構えた。51年に岐阜信用金庫に改組。同金庫の2023年3月期単体決算の期末預金残高2兆5900億

円は県内トップで、全国254信金の中でも11番目



にぎわい交流拠点を建設する岐阜信用金庫の旧若宮町支店の跡地。14日、岐阜市神田町



（3月末時点）となっている。

若宮町支店は昨年11月に移転。8月に店舗の解体を終え、現在は更地になっている。最初に本店を構えた発祥の地を生かし、100周年のシンボルとなる拠点を造ろうと、内部でプロジェクトチームを立ち上げ、跡地活用の検討を重ねてきた。

支店跡地は、柳ヶ瀬商店街から通りを挟んだ北側にあり、さらに北には市役所や複合施設みんなの森ぎふメディアコスモスなどの公

共施設が点在する。開業後は柳ヶ瀬商店街と市役所周辺の人の往来の増加につながるかが注目される。

（同市今沢町）に十六フィナンシャルグループ（F.G.）が市民の利用できる共有空間を備えたビルを建設する計画があり、地域活性化を進める金融機関の動きが加速している。（松浦健司）